

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・最終 )

中学校区 校番 18 学校名 呉市立昭和北中学校

| 重点  | d 中期(3年間) 経営目標   | e 短期(1年間) 経営目標   | l 結果の分析<br>(結果と課題をこう考えます)   | m 今後の改善策(案)<br>(こう改善します(案))  |
|-----|--|--|---|--|
| *** | <p>基礎的・基本的な内容の習得を図り、思考力・表現力(コミュニケーション力)を養う。</p>        | <p>分かりやすい授業による学習意欲の喚起<br/>「学びのサイクル」の確立<br/>自分の志を表現できる生徒の育成<br/>言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等の育成</p> | <p>○「授業が分かりやすいと感じている生徒」の割合、「授業において友だちの意見が参考になると感じている生徒」の割合とも目標値を超えている。<br/>○「平日に1時間以上家庭学習を行っている生徒」の割合が目標値を下回っている。自校版生活ノート(やる気んぐノート)の提出率の低下が原因であると考えられる。<br/>○「中学3年時に自分の志、理由、道筋を3文以上・自分の言葉で表現できる生徒」の割合が目標値を大きく上回っている。面接指導や表現活動指導、校長面談等の指導の成果であると考ええる。<br/>○「全国学力・学習状況調査」と「自校調査」の通過率の比較において、目標値を大きく上回っている。「全国学力・学習状況調査」の事後の分析と改善指導の成果であると考ええる。</p>  | <p>○授業改善をさらに進める。<br/>○提出率の低下の原因を分析し改善する。また、「Qubena」の効果的な家庭学習方法について検討していく。<br/>○これから課題と成果をまとめ、今後の指導の充実を図る。<br/>○今年度の「全国学力・状況調査」の問題と生徒の状況を分析し指導に活かす。</p>         |
| **  | <p>基本的な生活習慣を身に付け、進んで他者とかかわりながら、社会に貢献しようとする生徒を育成する。</p> | <p>「自らへの自信」の涵養及び道徳的実践力の向上<br/>規範意識を涵養</p>  | <p>○服装・時間・挨拶への指導を通しての自己指導能力の育成<br/>正しい服装を保っている98%から94.3%(-4.7%)自ら進んで挨拶をする生徒の肯定的な評価は95.7%から93.8%と(-1.9%)。また時間を守ろうとする生徒も93.2%から91.7%(-1.5)と下がった。一部の生徒ではあるが、指導に従わないなど規範意識の希薄さが見られる。また、学校行事もなく生徒が活躍する場も少なくなってきた、元気がなくなってきたようである。<br/>○生徒指導規程を核とする組織的な指導の推進<br/>各学期に1回生徒指導部会を開き、また学年を超えた生徒指導の交流に努めた。情報共有は中間期より実施できた。<br/>生徒指導規定の見直しの協議をすすめていく。<br/>○特別支援教育の視点を踏まえた学習環境の整備<br/>学校で取り組んでいる無言清掃を、真面目に取り組める生徒は少ない。</p> | <p>○生徒会を中心に、挨拶、無言清掃や2分前着席、服装点検の取組の声掛けを行い、学校全体で意識する雰囲気をつくる。<br/>○地域の方、生徒会を中心とした生徒と生徒指導規定を見直していくとともに、生徒にも生徒指導規定の確認を行う。<br/>○無言清掃のやり方を生徒会とともに協議し、評価の仕方を変えていく。</p> |
| *   |  | <p>活力を喚起する体験活動の充実</p>  | <p>○活力を喚起する体験活動の充実<br/>「部活の時間は楽しいです」は84%、「委員会や係活動では自分のできることを考え、協力して取り組んでいます」は90.4%であることから「部活動等に満足している生徒の割合」は87%であると判断した。</p>  | <p>○部活動の活性化<br/>充実感・達成感だけでなく自己有用感を得られるような部活動経営に取り組む。</p>   |

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| <p>活力があり、主体的に体力・運動能力の向上に取り組む生徒を育成する。</p> | <p>家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上</p> | <p>○家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上<br/>     体育の授業で持久走を行っている。この持久走はタイムによる得点と、自分の努力の程度を得点化したものと同じ比率での合算されるため、生徒が主体的に持久走に取り組むことができる仕組みとなっている。この活動で来年度の「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」の持久走で、全国平均を上回るようにする。</p> | <p>○運動能力の向上<br/>     持久走・シャトルランは全国平均以下なので、まずは持久走に力点を置いた指導を行っている。</p> |
|--|---|--|--|

|             |                     |                                       |  |  |
|-------------|---------------------|---------------------------------------|--|--|
| <p>業務改善</p> | <p>持続可能な教育環境の整備</p> | <p>生徒と向き合う時間の確保<br/>     長時間勤務の削減</p> | <p>○会議や研修の開催日や内容を精査する<br/>     会議の精選を図り、研修は長期休業日を中心に行った。<br/>     ○週1回の定時退校の徹底<br/>     毎週水曜日を定時退校日としているが、定時に退校することはなかなか厳しい状況にある。しかし、他の日に比べ教職員の退校は早くなっている。<br/>     ○部活動休業日の定着<br/>     毎週金曜日と日曜日を部活動休養日としている。<br/>     長時間勤務の削減については、4月から12月に時間外勤務が月45時間を越えた教職員の人数は、月平均で20人で全体の46%であった。冬場は生徒の下校も早いため、それに応じて教職員の勤務終了も早くなる傾向にあり、年間通ずともう少し少なくなると予想される。<br/>     業務改善についての校内研修を実施し、教職員で「どうすれば超過勤務が少なくなるのか」について考え、意見を出し合い交流する場を設けたが、目標達成に向けてはなかなか厳しい状況にある。</p> | <p>○教育相談を充実する。<br/>     ○校内研修で出てきた意見の中で、実践できそうなものから1つずつ実践していくようにし、時間外勤務が月45時間を越える教職員の人数を0にするという目標に向けて、引き続き少しでも0に近づけるようにする。</p> |
|-------------|---------------------|---------------------------------------|--|--|